

わたしたちの命を守ろう

～命を守る防災への第一歩～

課題発見・解決能力，主体性

- 1 日 時 令和5年10月27日（金） 2校時
- 2 学 級 第4学年1組（男子17名，女子17名 計34名）

3 単元設定の理由

(1) 単元観

本単元は、1学期に学習した災害に対しての正しい知識をもとに、自分と大切な家族や地域の人の命を守るためにできることを主体的に考え、行動できる力を身に付けさせることを目標として、探求課題を「命」とし、単元を設定した。近年、異常気象による集中豪雨、温暖化、地震など、子供達を取り巻く環境の中で、予想もつかない災害が頻繁に起こっている。また、今後35年の間に南海トラフ大地震が起こることも予想され、児童は、これから先の将来も、災害から身を守るための知識をもとに主体的に行動することを余儀なくされるであろう。自然災害の恐ろしさは測り知れず、児童にとっては太刀打ちできない問題だとも考えられる。しかし、そんな中でも、今、無事にある10歳の自分の尊い命に感謝し、家族・地域の人々のために自分でもできることを考え、災害が起きた時に社会の一員として主体的に活動しようとすることは、児童がこれからの生き方を考えていく上で大変重要な資質・能力である。自助、共助の意識を高め、防災についての知識を深め、その備えに対する小さな一歩を踏み出せる児童の育成を目指し、本単元「わたしたちの命を守ろう～命を守る防災への第一歩～」を設定した。本単元を通して、1学期に学習した災害に対しての正しい知識をもとに、自分と大切な家族や地域の人の命を守るためにできることを主体的に考え、行動できる力を身につけさせたい。こうした現状から災害から命を守るという本単元の意欲を高めることができると考える。

(2) 児童観

本学級の児童は1学期に近年の、日本で起きた災害や感染症の中から自分が関心をもったテーマごとに、災害の様子、被害の大きさ、災害にあった人の体験談などについて、新聞記事やインターネット、書籍などを使って調べ学習に取り組み新聞にまとめることにより、情報活用能力やわかりやすく表現する力などがついてきている。これまでも災害の名前を聞いたことがあり何となく知っていたことが、活動を通して詳細を知ることで、自分達が生まれる前に大きな災害が起きていたことに驚き、恐怖心や悲しみを抱いた児童もいた。学習後に行った防災についての児童アンケートでは、次のような結果が得られた。

防災についての児童アンケート（4年1組34名）

	はい（思う）	いいえ（思わない）
1学期の学習を通して防災に関心をもつようになった。	97%	3%
災害の備えは十分にできていると思う。	9%	91%
これから先、どこかで災害にあう可能性があると思う。	100%	0%

この結果から、児童はだれもが災害に合う可能性はあると認識があるものの、具体的に自分の命を守るための備えは行っていないことが分かった。このような意識と行動のズレからも、こうした状況から災害から命を守るという本單元への意欲を高めることができると思う。

(3) 指導観

本單元では、1学期に学習した災害についての知識を活かし、自分や家族の命を守るためにできることを考え、災害時にどのような行動をとればよいかを家族で話し合うことができる成果物を完成させる。指導に当たっては次の点に留意する。

① PBL (※) の考え方を生かした課題発見・解決学習

1学期に学習した災害の知識をもとに、自分たちの命を脅かす災害から大切な自分の命や家族地域を守っていききたいという思いを想起させ、そのためにはどうしたらよいか、自分たちにできることは何かを考えさせていく。実際に避難所を見学したり避難した後はどのようなものが必要になるのかを考えさせたりした上で、防災リュックには何を入れたらよいかを話し合わせるなど、これまでの学びと関連付けて自分の生活や行動に生かしていく力を育てていきたい。

また、同じ地区で集まって避難ルートを考えたり、自分に合った防災リュックを考えたりする中で、自分と異なる意見や考えを認め、選択や修正する活動を通して、さらに探究していこうという力を育てていきたい。

※PBL (プロジェクト型学習) …ひとつの解が存在しない発展性のあるプロジェクトを扱う学習。

② 思考ツールの活用

児童の活動の中で、児童の考えを深めるために、思考ツールを活用する。整理分析する場面では、考えを分類したり取舍選択したりするためにYチャート等を活用する。

③ リフレクションの活用

学習したことを振り返り、次時の学びにつなげていく。日々の学びの足跡を残していくことで学びの変容に気付かせたい。さらに、めあてや評価を明確にしていくことで意欲を高めていきたい。

④ ルーブリック評価の活用

評価に関しては、自分と大切な家族や地域の人の命を守るためにできることを主体的に考えているかどうかを見取っていく。授業の際には、ルーブリック評価の内容を児童と共有することで児童自身が見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。

⑤ ファシリテーション

児童の思いや願いを大切に活動内容とするために、教師はファシリテーターの役割を果たすことを意識したい。多様な意見を引き出すために、単元を通して意図的なグループ分けを行い、児童の気づきが深まるようにする。

4 単元の目標

災害に対する正しい知識をもとに、自分に合った防災方法について調べたりまとめたりする活動を通して、災害時に必要なものや自分の命を支えてくれている地域の人々や家族とのつながりに気付き、自分と大切な人の命を守る意味とそのために必要なことについて主体的に考え、これからの行動を見つめ直すことができるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 自然災害や防災について知るとともに、災害から身を守るための様々な取組を理解している。	① 自分たちの命を守る防災について課題を設定し、解決に向けて自分たちにできることを見通して計画を立てている。	① 自然災害や防災に関心をもち自分の意思で探究的な学習に取り組もうとしている。
② インターネットや図書などによる調査を、目的に応じた方法で実施している。	② 調査する対象に応じた方法を選択し必要な情報を収集している。	② 自分と異なる友達の考え、専門家の意見を生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。
③ 命を守る意識の高まりは、自然災害や防災と自分たちの生活との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	③ 複数の情報から自分の生活に応じた中身を取捨選択し、解決に向けて考えている。 ④ 活動を通して学んだ防災に関する情報を生かして、防災リュックを作ったりリーフレットにまとめたりしている。	③ 自然災害や防災と自分たちの生活の関わりに気付き、命を守る行動の重要性を伝えようとしている。

6 単元のルーブリック

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① A 自然災害や防災についてこれまでの生活や学習、他教科と関連付けて、自分たちにできることが分かる。	① A 自分たちの命を守るためにできる取組について、これまでの学習や他教科と関連させて課題を決め、解決に向けてワークシートやリーフレットに記述している。	① A わたしたちの大切な人や自分の「命」を守るために自分たちにできることをこれまでの生活や学習、他教科と関連付けて、考え取り組もうとしている。
B 自然災害や防災について、自分たちにできることが分かる。	B 自分たちの命を守るためにできる取組について、課題を決め、解決に向けてワークシートやリーフレットに記述している。	B わたしたちの大切な人や自分の「命」を守るために自分たちにできることを考え取り組もうとしている。

②	A	自分の家の周りの状況や災害場面に応じた、情報を収集し、災害に応じた避難場所や避難ルート、連絡方法について目的に応じた複数の方法で調べている。	②	A	生活上欠かせないことについて、ライフラインや三大要素である「食べる、寝る、着る」などの項目ごとに対象に応じてより必要な情報が集まる方法を選択し情報収集している。	②	A	自分の意志で探求的に、家族構成に応じた中身を取捨選択し、リーフレットや防災リュックを作ろうとしている。
	B	災害に応じた避難場所や避難ルート、連絡方法について目的に応じた方法で調べている。		B	生活上欠かせないことについて、ライフラインや三大要素である「食べる、寝る、着る」などの項目ごとに対象に応じた方法で、情報収集している。		B	自分の意志で探求的に、リーフレットや防災リュックを作ろうとしている。
③	A	自然災害や防災と自分たちの生活が関わっていることへ気付けたことは、探究的に学習してきたことによさであると複数の場面で気付いている。	③	A	これまでの学習や友だちの意見などを参考に自分の生活に応じた防災リュックの中身を取捨選択している。(本時) 災害に応じた避難場所、避難ルート、連絡方法の情報から自分に必要な情報を選択し、実際の場面を想定し考え記述している。	③	A	出来上がったリーフレット等を生活の中に生かし、家族や地域の人々に発信しようとしている。
	B	自然災害や防災と自分たちの生活が関わっていることへ気付けたことは、探究的に学習してきたことによさであると気付いている。		B	自分の生活に応じた防災リュックの中身を取捨選択している。(本時) 災害に応じた避難場所、避難ルート、連絡方法の情報から自分に必要な情報を選択し考え記述している。		B	出来上がったリーフレット等を生活の中に生かそうとしている。
			④	A	自分の「命」が地域の人々や家族とのつながりによって支えられていることに気づき、その思いや取捨選択した情報を活用してポスターやリーフレット等で表現しようとしている。			

			B	自分の「命」が家族とのつながりによって支えられていることに気づき、その思いや情報をポスターやリーフレット等で表現しようとしている。	
--	--	--	---	---	--

7 単元の全体計画（全 28 時間）

次	学習内容	評価			
		知・技	思 判 表	主 体 的	評価方法
1	<課題の設定①> ○ 災害について調べ、感じたことや疑問を振り返り、わたしたちの大切な人や自分の「命」を守るためにできることを考える。(1)		①	①	発言・ワークシート
	<情報収集①> ○ 避難場所や避難ルート、連絡方法について調べる。(3)	②			ワークシート
	<整理・分析①> ○ それぞれの避難場所や避難ルート、連絡方法などを交流し、自分の住んでいる地域や家族構成に合ったものを選ぶ。(2)		③		発言・リフレクションシート
	<創造・表現①> ○ 避難場所や避難ルート、連絡方法などを決定し、リーフレットに記入する。(2)		④		リーフレット
2	<情報の収集②> ○ 今、生きるために欠かせないことについて調べる。(食べる、寝る、着る、お風呂、トイレ) (2)		②		発言・ワークシート
	<整理・分析②> ○ 災害を想定し、自分たちで命を守るために何ができるか考える。(2)		③		

	<p><情報の収集③></p> <p>○ 避難所にはどのような備えがあるのかを知る。(1)</p>	①			発言・ワークシート
	<p><整理・分析③></p> <p>○ 自分の生活に合わせて選んだ「防災リュック」に入れるものについて考える。(4) (本時 4/4)</p>		③		発言・リフレクションシート
	<p><創造・表現②></p> <p>○ 自分の選んだ「防災リュック」を決定し、自分の「防災リュック」を作る。(3)</p>			②	行動・リーフレット
	<p>○ 大切な人の命を守るために、地域の人に発信する方法を考え、成果物に残す。(4)</p>		④		防災ポスター・リフレクションシート
3	<p><振り返り③></p> <p>○ 今生きていることに感謝し、家族の人に手紙を書き、「わが家の防災ルールブック」を仕上げ、家族に伝える。(3)</p>			③	リーフレット
	<p>○ 自然災害や防災と自分たちの生活とのかかわりについて、これまでの活動を振り返る。(1)</p>	③			リフレクションシート

8 単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

資質・能力	目指す児童像
課題発見・解決能力	地域の人々や家族と積極的に関わり、話を聞いたり社会科で学んだことを取り入れたりしながら、命の大切さについて考え、自分の家庭で活用することのできる成果物として表現することができる。
主体性	自分の命を支えてくれている地域の人や家族とのつながりに感謝の気持ちを持ち、命を大切にしていくために、これからどのように行動するかを考えることができる。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

これまでの学習から、自分に合った防災リュックの中身を考え直すことができる。

(2) 準備物

リフレクションシート、タブレット

(3) 展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項	【観点】評価規準（方法）
	T：主な発問・指示 C：予想される児童の反応	○指導上の留意事項 ▲支援を要する児童への手立て	
見通しをもつ	1. 今までの学習を想起し、災害に対する備えの必要性を振り返る。 T：何のために学んできたのでしょうか。 C：自分の命を守るためです。 C：そのためには、事前の備えが必要です。 2. 本時の課題を確認する。	○今まで行ってきた調べ学習やVR体験などの活動を振り返ることで、これまでの内容を確認し、それを生かした本時の活動となるようにする。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>㊦ 自分の命を守る防災リュックの中身について考え直すことができる。</p> </div>		
自分の考えをもつ	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ループリック（思・判・表③） 児童との評価の共有 A：（+）学習したことや友だちの考えを生かして考える。 B：自分に合ったリュックの中身を選ぶ。</p> </div>	▲防災リュックの見本を教室前方に掲示する。 ○被災した時期(冬)の条件を提示し、避難所での生活を想定できるようにする。 ○前時に作成した、タブレット内のデータを活用しながら、話し合えるようにする。 ○「生きるために必要なもの」「あったら便利なもの」「自分にとって大切なもの」という視点を確認し、整理できるようにする。	【思・判・表③】 複数の情報から自分の生活に応じた中身を取捨選択し、解決に向けて考えている。
	3. 防災リュックの中身について考える。（個人→班） T：自分が考えた防災リュックの中身が本当に必要なものか、振り返ってみましょう。 C：防災リュックの大きさには限りがあるから減らす必要があると思います。 C：食べ物は必ず必要だと思います。もし食べ物が		

<p>考えを交流する</p> <p>振り返る</p>	<p>無くなったら命にかかわるからです。</p> <p>C：親とはぐれる可能性もあるから、自分の名前や住所が書かれている紙もリュックに入れておく必要があると思います。</p> <p>4. 全体で交流する。</p> <p>T：友だちの意見を聞いて変えたものや付け足したものはありますか。</p> <p>C：友だちの意見を聞いて、私も同じものを防災リュックの中身に付け足したいと思いました。</p> <p>C：ぼくにとってぬいぐるみは大切です。理由は、安心するからです。</p> <p>5. 振り返りをする。</p> <p>T：今日の学習で分かったこと、感じたことをリフレクションシートに書きましょう。</p> <p>C：人によって大切だと思う基準はそれぞれだと分かりました。自分に本当に必要なものを整理して事前に備えることが、一人一人の命を守ることにつながるのだと思いました。</p> <p>C：今日は冬の防災リュックを作成したけれど、夏になると中身も変わるから、定期的に防災リュックを見直すことが大切だと分かりました。</p> <p>C：家族にも事前の備えの必要性を伝えていきたいです。</p>	<p>○説明を聞いて、疑問に思ったことや、感想を自由に発言してよいことを伝える。</p> <p>○友だちとの意見交流を通して、訂正・加筆したグッズについて振り返ることができるようにする。</p> <p>▲迷っている児童には、「自分にとって大切かどうか」という視点を与えることで、自分に合ったリュックの中身を考えるようにする。</p> <p>○新しく気付いたことや、友だちの話を聞いて思ったこと、分かったこと、これからやりたいことなどについて振り返るようにする。</p>	<p>ループリック(思・判・表③)</p> <p>A：これまでの学習や友だちの意見などを参考に自分の生活に応じた防災リュックの中身を取捨選択している。</p> <p>B：自分の生活に応じた防災リュックの中身を取捨選択している。</p> <p>(リフレクションシート)</p>
----------------------------	---	--	---

(4) 板書計画

わたしたちの命を守ろう

④ 自分の命を守る防災リュックの中身について考え直すことができる。

A (+)学習したことや友だちの考えを生かして考える。
B 自分の生活に合ったリュックの中身を選ぶ。

自分にとって大切なもの

あったら便利なもの

生きるために必要なもの

